海人（うみひと）

現場最前線

今につながる震災復旧工事の経験

株式会社トマック
東京統括作業所長・監理技術者
牧野　友明 氏　（まきの・ともあき）

東京湾岸の東京都大田区昭和島。京浜運河や平和島運河につながるガスミオ運河は、全長約700m。一説には近くに石油基地がありガス精製が行われていたことから、この名称が付いたとされるガスミオ運河で、地震・津波や高潮対策を目的とした防潮堤建設工事の現場代理人兼監理技術者を務めた。東京都港湾局が2019（令和元）年度から4分割で進めてきた防潮堤建設工事の最終工区。径1,500mm（厚さ25mm）、全長21.2mの鋼管杭を今回は29本、回転・切削・圧入により打設し、自立矢板式防潮堤を構築した。

今年1月に始まった工事は、計画通りに進捗し、9月中旬に鋼管杭の打設を終え、9月末からは後片付けや書類作成を残すのみとなった。工事場所は東京モノレールの軌道の近接地で、クレーン作業などには細心の注意を要した。主要工程を無事に完了し、一つの仕事をやり遂げた安ど感が笑顔に表れる。東京地区の統括所長を務める牧野氏は、複数の現場に目を配る立場にある。ただ、受け持った個々の現場では、あくまで一人の現場代理人として工事と向き合い、ものづくりに集中することを心掛けているという。

クランプクレーンを使った鋼管杭の打設作業

岩手県一関市出身。東日本大震災の翌年から約5年にわたり震災復旧工事に新任の作業所長として携わった。大水深の釜石市沖の海底にケーソンのマウンドを造る工事をはじめ、漁港向けにフローティングドックを使用してケーソンを製作する工事、堤防の上部工をかさ上げする工事など、品質管理が難しい冬期の施工を含め、季節に関係なく復旧工事に取り組んだ。「地元ですし、同じ東北なので、一日も早くいいものを、と施工管理にも気持ちが入りました」と振り返る。

震災復旧工事を通じて作業所長の基礎を磨いたという牧野氏に、若手へのアドバイスを聞くと、「今の若い人は大変優秀な人が多い。しいて言えば、建設業界は元気よく挨拶することが基本。そうすればコミュニケーションもしっかり取れる。分からないことは、黙ってないで聞くこと。現場に出たら、慌てないこと。一般事項だけど、なかなか守れないものです」と助言してくれた。

2002年に株式会社トマックに入社。海の仕事は21年目を迎えた。勤続20年の奨励として与えられる5日間のリフレッシュ休暇を、どう取ろうかと思案している。

工事概要

【工事件名】令和３年度ガスミオ運河（昭和島二丁目）防潮堤建設工事
【工事場所】東京都大田区昭和島２丁目地先
【発 注 者】東京都港湾局　東京港建設事務所
【請負業者】トマック・神洋建設ＪＶ
【工　　期】2022年１月４日～10月21日